### outputtxt

指定されたファイルシステムパスに、与えられたフィールド値をテキストファイルとして記録します。

#### 構文

outputtxt [append=BOOL] [delimiter=CHAR] [encoding=CHARSET] [flush=INT{y|mon|w|d|h|m|s}] [gz=BOOL] [partition=BOOL] [tmp=TMP\_FILE\_PATH] FILE\_PATH FIELD, ...

必須パラメータ

**FILE\_PATH**

ファイル出力先のパス

**FIELD, ...**

ファイルに出力するフィールドリスト。フィールドの区切りにはカンマ（,）を使用します。

オプションパラメータ

**append=BOOL**

FILE\_PATHに既存ファイルがある場合の追記制御オプション（デフォルト: f）

1. t: 指定したFILE\_PATHの末尾にデータを追記し、ファイルが存在しない場合は新規作成します。overwrite=tと同時には使用できません。
2. f: 追記を無効化。既にファイルが存在する場合、クエリは失敗します。

**bom=BOOL**

ファイルヘッダーにBOM（Byte Order Mark）を付与するかどうか

1. t: BOMをファイルヘッダーに追加
2. f: BOMをファイルヘッダーに追加しない

**delimiter="CHAR"**

フィールド区切り文字（デフォルト: 空白文字）

**encoding=CHARSET**

文字列エンコーディング形式（デフォルト: utf-8）。以下のドキュメントに登録されたPreferred MIME NameまたはAliasesを使用してください: <http://www.iana.org/assignments/character-sets/character-sets.xhtml>。

**flush=INT{y|mon|w|d|h|m|s}**

出力バッファをフラッシュするインターバル。単位はy（年）、mon（月）、w（週）、d（日）、h（時）、m（分）、s（秒）のいずれかを指定できます。例：5秒ごとにバッファをフラッシュする場合は5sと指定します。

**gz=t**

GZIP圧縮の使用有無（デフォルト: f）

1. t: テキストファイルをgzアーカイブファイルとして圧縮
2. f: GZ圧縮機能を使用しない

**overwrite=BOOL**

FILE\_PATHに既存ファイルがある場合の上書き制御オプション（デフォルト: f）

1. t: ファイルの上書きを有効化。append=tと同時には使用できません。
2. f: 上書きを無効化。既にファイルが存在する場合、クエリは失敗します。

**partition=BOOL**

FILE\_PATHのマクロ機能制御オプション（デフォルト: f）。partition=tの場合、FILE\_PATHにマクロを利用して時刻に応じてディレクトリやファイルパスを動的に変更できます。

1. t: マクロを有効化
2. f: マクロを無効化

: 利用可能なマクロは{logtime:FMT}および{now:FMT}です。入力例は使用例2を参照してください。

1. {logtime:FMT}: ログ発生時刻を基準にディレクトリやファイル名を付与
2. {now:FMT}: 現在時刻を基準にディレクトリやファイル名を付与

パーティションオプションを指定し、パスにマクロを使用しない場合、クエリは失敗します。

**tmp=TMP\_FILE\_PATH**

一時ファイルパス。このオプションを設定すると、一時ファイルを作成してそのパスに出力し、クエリが正常終了した時点でFILE\_PATHで指定したファイルパスに移動します。

#### 使用例

ippair.txtファイルにsrc\_ipおよびdst\_ipフィールドの値を記録

json "[ {'src\_ip':'192.0.2.1', 'dst\_ip':'198.51.100.1'}, {'src\_ip':'192.0.2.2', 'dst\_ip':'198.51.100.2'}, {'src\_ip':'192.0.2.3', 'dst\_ip':'198.51.100.3'}, {'src\_ip':'192.0.2.4', 'dst\_ip':'198.51.100.4'}, {'src\_ip':'192.0.2.5', 'dst\_ip':'198.51.100.5'}, {'src\_ip':'192.0.2.6', 'dst\_ip':'198.51.100.6'}, {'src\_ip':'192.0.2.7', 'dst\_ip':'198.51.100.7'}, {'src\_ip':'192.0.2.8', 'dst\_ip':'198.51.100.8'}, {'src\_ip':'192.0.2.9', 'dst\_ip':'198.51.100.9'}, {'src\_ip':'192.0.2.10', 'dst\_ip':'198.51.100.10'} ]" | outputtxt /opt/logpresso/files/ippair.txt src\_ip, dst\_ip

記録マクロを利用し、ログ発生年月日でディレクトリを指定し、現在時刻を基準にファイル名を生成してsrc\_ipおよびdst\_ipフィールド値を記録

json "[ {'src\_ip':'192.0.2.1', 'dst\_ip':'198.51.100.1'}, {'src\_ip':'192.0.2.2', 'dst\_ip':'198.51.100.2'}, {'src\_ip':'192.0.2.3', 'dst\_ip':'198.51.100.3'}, {'src\_ip':'192.0.2.4', 'dst\_ip':'198.51.100.4'}, {'src\_ip':'192.0.2.5', 'dst\_ip':'198.51.100.5'}, {'src\_ip':'192.0.2.6', 'dst\_ip':'198.51.100.6'}, {'src\_ip':'192.0.2.7', 'dst\_ip':'198.51.100.7'}, {'src\_ip':'192.0.2.8', 'dst\_ip':'198.51.100.8'}, {'src\_ip':'192.0.2.9', 'dst\_ip':'198.51.100.9'}, {'src\_ip':'192.0.2.10', 'dst\_ip':'198.51.100.10'} ]" | outputtxt partition=t /home/logpresso/files/{logtime:yyyy/MM/dd}/{now:HHmm}.txt src\_ip, dst\_ip